所属組織を越えたコミュニティによる「標準的なバス情報フォーマット」普及活動

標準的なバス情報フォーマット広め隊

連絡先：伊藤昌毅（東京大学 生産技術研究所） mito@iis.u-tokyo.ac.jp

富山 ～地域 IT コミュニティの活動から県の事業へ～

Code for Toyama City などの地域の IT コミュニティの取り組みがきっかけとなり、2018 年度から県の事業としてデータ整備やバスロケ整備が始まりました。IT コミュニティが講師となる勉強会を開催し、バス事業者や自治体が自らデータ整備を行うことを目指しています。

福岡

～地域の大学の力でコミュニティバスを IT 化～

九州産業大学 稲永健太郎准教授の研究活動として学生と共に地元コミュニティバスの運行管理支援システムを開発。県内コミュニティバスの利用状況調査やデータ整備を手がけています。

青森 ～市営バス職員が奮起、Google マップ掲載へ～

青森で開催した「GTFS・オープンデータ勉強会」、東京で開催した「その筋屋勉強会」などをきっかけに青森市営バスの職員が自力でデータ整備に取り組み、2018 年 4 月に Google Maps への提供とオープンデータ提供を実現しました。

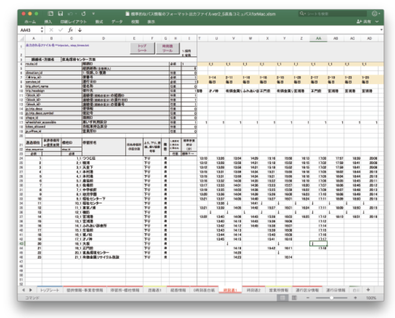
「標準的なバス情報フォーマット・GTFS」による公共交通オープンデータマップ

（2018 年 7 月現在）

自治体や交通事業者による取り組みが相次いでいます。群馬、富山、佐賀、沖縄は県単位でデータ整備を実施しています。

東京大学

～データ作成 Excel マクロを開発～



空間情報科学研究センター 西沢明特任教授が Excel による「標準的なバス情報フォーマット出力ツール」を開発しました。手軽にデータを作成できるツールとして全国で用いられています。

岡山 ～民間バス事業者によるオープンデータ競争～

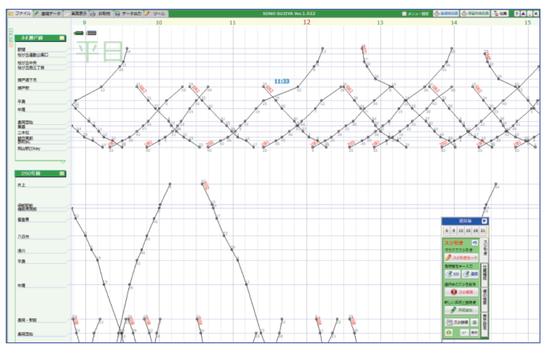
地域の複数の民間バス事業者（宇野バス・下電バス・両備バス・岡電バス・中鉄バス）が相次いでダイヤやバスロケのデータをオープンデータ化し、「公共交通オープンデータ最先端都市」を実現しました。7 月 14 日には県内外から 111 名を集めたイベントを開催、データの活用に向けて地域が盛り上がっています。

愛知・岐阜・三重

～全国のバスデータ整備の原点～

公共交通利用促進ネットワーク（路線図ドットコム）の伊藤浩之氏によって、21 年以上にわたりバスマップの作成などの活動が続けられています。その中でコミュニティバスのデータ整備や乗換案内への提供が進められ、現在は愛知県、岐阜県、三重県の自治体によるデータ整備の支援活動などを行っています。

宇野バス ～バス IT 化のリーディングカンパニー～



高野孝一氏により、独自のダイヤ編成支援システム「その筋屋」を開発。独自開発のバスロケやサイネージなど、最新技術をいち早く取り入れた路線バスの IT 化が進んでいます。GTFS-Realtime（バスロケ）も全国で初めてオープンデータ化しました。その筋屋は無償で公開されており、全国のバス事業者の IT 化やデータ整備に役立っています。